



皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、国内において新型コロナウイルスワクチン接種が始まり、当院でも多くの職員が医療従事者としてワクチンの集団接種業務に参加いたしました。また、昨年末からはワクチンの3回目の接種も始まりました。コロナウイルスの感染拡大から既に2年が経過しようとしていますが、いまだ終息が見えておらず、まだまだこの闘いは継続しそうな状況です。会食や移動の制限、在宅ワーク、テレワークといった対面や密を避けるような働き方の変化により、人との関りが希薄となり、メンタル面のケアの重要性が増してきました。病院、施設などではご家族や友人との面会制限が続き、オンラインや電話による診療、リモート面会など、感染予防の為の診療体制も続いています。日々進化する医療やIT技術により患者様の身体的なサポートはできますが、患者様にとって一番の元気の源は、大切な方と共に過ごす時間ではないでしょうか。

コロナ感染拡大により延期された東京オリンピックですが、昨年嚴重な感染予防対策の中、無観客で開催されました。1年にもおよぶ開催の延期は、アスリートにとっては肉体的にも精神的にも厳しい状況に違いありません。それでも、苦難を乗り越え、選手たちが参加した東京オリンピックは、感動の涙と輝かしい笑顔いっぱいの舞台でした。地元延岡では、旭化成柔道部の大野将平選手が金メダルを獲得し、延岡市民に喜びと活気を与えてくれました。

アスリートの活躍といえば、今やプロ野球ファンでなくてもその名を知らない人はいないであろう日本人メジャーリーガー大谷翔平選手もその一人です。心身ともに過酷なMLBのレギュラーシーズンを投手、打者の両方で勝ち抜いた大谷選手は、誰もやっていないことをやってみたという思いが強く、これが二刀流への挑戦の原点だと話していました。彼のその精神力で、誰もが想像し得なかった次元で二刀流を“完遂”しました。先入観は可能を不可能にする。先入観なく何にでもチャレンジすることは野球だけではなく全てにおいてとても大事なことです。メジャーリーガー大谷翔平選手を同じ日本人としてとても誇りに思うと同時に、今後更なる活躍と快進撃が楽しみです。

また、昨年は「東日本大震災から10年」という年でもありました。人々が復興へ向け前進できたことは、人と人との繋がりや支え合いの精神があったからこそです。震災やコロナ感染拡大の経験は、私たちに人間の無力さだけでなく、人の温かみ、日常への感謝を改めて教えてくれました。

私たち医療従事者ができること。それは地域格差なく、皆が平等に安心して医療を受けられる環境づくりです。人に寄り添い、温かみのある病院を目指します。コロナ禍により厳しい環境は続きますが、この難局を乗り越え、職員一丸となって地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

引き続きご指導ご厚情賜りますようお願いいたします。



新年あけましておめでとうございます。

海外ではオミクロン株が猛威を振るっているとともに、国内においてもまん延が懸念されている中、ワクチンの3回目接種が政府主導で始まっております。私たちの生活様式も「ウィズコロナ」の言葉の通り、マスク着用や三密を避けることが自然の行動となり、「流行する以前の社会に完全に戻すことはもはや不可能である」ともいわれるようになりました。コロナ感染拡大により、経済に大きなダメージを与え、我慢を余儀なくされる生活が今なお続いています。しかしながら、この苦境な経験は、私たちにとって当たり前過ぎてきた日常生活に感謝することや、友人や家族との時間を改めて大切に感じることもできたのではないのでしょうか。

コロナ禍で合言葉のように連日聞いていた「三密」という言葉。

これは弘法大使の開いた真言宗の言葉にもあります。

身密(しんみつ)、口密(くみつ)、意密(いみつ)。

からだや行動(身)を整え、言葉や発言(口)を正しいものとすれば、おのずと心や考え(意)も整うという密教の教えです。

これからのアフターコロナ社会の三密を弘法大使の教えに置きかえ、感染しないよう慎重に行動をすること、憶測や噂を軽々しく発言しないこと、多くの情報にまどわされて、心を乱さないこと。苦境を糧とし、経験を知識へと変え、前向きに行動していくことで、どんな困難も乗り越えていけるでしょう。私たち医療従事者は、鬼手仏心を持ち、自らが感染予防に努めコロナに臆することなく、変わらず診療に従事していくことこそ使命と考えます。

今年も地域医療に貢献できる黒木病院として、職員一丸となって精進して参ります。

コロナ禍の終息と皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



## 外来紹介

当院は、外来は4つの診察室を有し、看護師12名、看護助手1名の合計13名のスタッフで日々がんばっています。時間外の救急医療を積極的に行っている他、化学療法室にて月曜日から金曜日に抗がん剤治療も行っています。



### 内視鏡室

担当医師5名、内視鏡技師認定を取得した看護師4名で胃内視鏡・大腸内視鏡・胆道系内視鏡の検査・治療を行っています。苦痛を軽減できるよう希望に応じて鎮静剤を使用するなどして、安全・安楽に検査を受けていただけるよう努めています。



### 手術室

当院では、年間約280件の手術を行っています。手術室看護師は3名で、院長、外科・麻酔科の先生方と協力しながら手術を行っています。「患者様や家族に優しく寄り添い、手術への不安を和らげ、安心・安全に手術が行われること」を心掛け日々頑張っています。

